

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300155		
法人名	株式会社 コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホームものの里(1階)		
所在地	福島県伊達市沓形18番地の2		
自己評価作成日	令和3年2月19日	評価結果市町村受理日	令和3年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理者やケアマネだけでなく職員一人一人がご本人や家族との関わりを持ち、その人の育ってきた背景や好きな事、嫌いなことを把握しストレスなく楽しく過ごしてもらえるケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所行事(避難訓練・運営推進会議・認知症カフェ等)に元町内会長・町内会役員・敬老会会長・地域の消防団等、地域から大勢の参加があり、事業所運営に協力的である。現在は、コロナ禍にあり、継続できていないが、管理者は書類を持参訪問し、交流が途絶えないよう取り組んでいる。
2. 職員間のコミュニケーションが良く、職員が連携を図りながら利用者本位のケアに努めており、利用者は穏やかで安心した生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの生活に基づいて事業所でも安心して生活できるよう支援している。理念を職員にわかるように掲示し理念に基づきながら介護できるよう心掛けている	理念は事務所や玄関ホール、各ユニット共有フロア等に掲示しており、毎日確認している。また、職員会議等の際に理念の振り返りを行い、職員間で共有している。利用者のよこびに繋がるよう支援に努めており、理念を実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば祭りや地域行事への参加、中学生との体験交流など行ってきたが、コロナの影響もあり現状では入居者様と外部との交流は行えていない。事業所としては地域の会議があった場合は出席し交流を行っている	地域行事に利用者と参加し、事業所行事(避難訓練・秋祭り・認知症カフェ等)には地域住民等の参加があり、中学生の体験学習や高校生ボランティア・傾聴ボランティア等を受け入れ双方向で交流をしていたが、昨年からコロナ禍にあり、交流が途切れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は認知症カフェなどでの交流を通じて地域との繋がりや支援を通じて生かしているが今年度は実践できていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	今年度は運営委員の方が集まったの会議は行えていない。2ヶ月毎の報告の資料作成を行い、配布、その際に意見を頂いている。今年度は感染対策の意見が多く、参考にしながら実践している。	運営推進会議は定期的開催され、事業所の現況・活動・看取り等の報告をし、会議の際に避難訓練の実施もしていたが、昨年からコロナ禍にあり、書面開催となっている。協力医の参加もあるが、地域包括支援センターの委員が過半数以上に出席できず、利用者・家族代表にはまだ参加依頼が出来ていない。	基準省令により行政代表・地域代表・利用者または家族の代表が運営推進会議に参加することが求められており、早急に参加できる委員の選定をして欲しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール等を通じて連絡体制の構築し協力体制をつくっている。気を付けているが密には連絡を摂れていなくこれからの課題である。	事業所からは利用者の介護保険の更新手続きや運営状況の報告をしたり、不明点等は相談・確認しながら行っている。現在、コロナ禍にあり、メールでの連絡体制ができ、日常的な行政からの情報提供もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議で身体拘束に関する勉強会を行い、日頃しているケアが該当していないか確認している。玄関の施錠は日中解除しているが夜間は防犯のため施錠している。	毎月の職員会議の中で日頃の支援内容を振り返り、身体拘束に関わる研修会を開催したり、職員会議等で疑問点を話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。職員の見守りに対応で玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援している。しかし、以前作成した身体拘束適正化指針が見当たらないため、早急に探し出して欲しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本人の気持ちを汲み取り虐待へ繋がらないかを注意しながら介護している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて理解できる様には取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に家族や利用者の思いを聞き入居してからの生活にいかせるようにしている。契約する際には2人職員でいくようにして説明漏れを防ぎ理解してもらえるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在では玄関での対応や電話が増えているが利用者の方の状況を説明し意見や要望をもらいながら運営に生かしている	家族とのベランダ越し面会時・電話連絡時は、利用者の様子を報告し、家族の意見や要望を聞き取るよう心がけている。聞き取った意見等は運営に反映させている。現在は、コロナ禍にあり利用者の様子を事業所の新聞で詳しく伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より様々な意見を管理者ととりまとめその都度会社と交渉しできる部分は反映してもらっている	職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、職員は何でも話しやすい環境である。また、毎月の職員会議等でも職員の意見や提言等を聞いており、業務見直しを行う等運営に反映させている。さらに、家庭状況等に応じて、職員が継続して働けるよう配慮しており、資格取得の際の支援等もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一回の人事考課・個人面談にて職員の希望や意見を聞いて本社へとつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格所得を目指す職員もあり、支援制度を作り補助してくれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議には積極的に参加し意見交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で本人と意識共有する時間を持ち気持ちの汲み取りができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の申し込みや契約の段階で家族と意識共有する時間を多く持ち入居後も家族とこまめに連絡をとっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者やケアマネだけでなく職員ができるだけ家族とも直接話す機会を持ち、意見を持ち寄りながら他のサービス利用の検討を行っている。現在、訪問マッサージを利用されている利用者様もいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係構築の努力をしているが中々理想通りにはいかず介護対象者になっている部分がある。職員と礼儀や尊敬を忘れずに接し互いに協力しながら共同できるようにしていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報連相を忘れずに離れていても本人を支えあう関係の構築には気を付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報等の問題もあるが本人や家族と意思統一しなじみの関係が途切れないように努めている。	家族等の訪問を受け入れ、利用者とゆっくり懇談できるよう配慮していた。現在コロナ禍のため、家族への便りに利用者が直筆でコメントを書いたり、ベランダ越し面会をすることで利用者・家族の不安を解消し関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介在しみんな一緒にする運動やレクを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからのアクションはできていないが、相談があった際に話を聞き次に繋げたということもあったため、今後はフォローにも繋げていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の能力差もあり汲み取りがどこまでできているかは課題である。職員会議にて利用者個別の問題やケアの仕方を協議し本人が快適に過ごせるよう努めている	日々の関わりの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通の困難な人は、家族の意見や利用者の仕草・行動・表情から利用者本位に検討し意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込や契約の際に本人や家族に聞き取りを行い把握した上でどのような対応をすればよいのか受け入れ段階で職員が統一できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	GHは集団生活であるため日々のスケジュールはありますが、その日の体調やその人の生活スタイルを崩さない様に職員が会話や動きなど現状把握に努め、柔軟に対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で利用者の方に対する共通認識を持ち業務にあたる。日々の申し送りや月間報告書にて課題等を整理して毎月の職員会議に原案として上げ、職員・ケアマネ・管理者が共有し介護計画策定につなげている	利用者の心身状態や利用者・家族の意向を踏まえ全職員で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。また、月間報告書で身体状態の変化も把握しているが、介護計画の見直しは3ヶ月ごととなっている。	毎月実施している月間報告書で介護計画書の支援内容が利用者の現状と合わなくなっていることを把握した場合には、速やかに計画を立て直して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り簿に日々の状態を記入し、少しでも変化があった際に職員が共有できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人を中心として家族と状況を確認しながら訪問内容や受診対応などを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はなかなか外出支援が難しいため、職員が必要なものを聞き購入している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とキビタンネットをつなぎ、少しでも気になることがあれば相談し指示や往診いただき不安なく過ごせるよう気を付けている	入居時に確認した利用者・家族の希望する方法で受診支援が行われている。多くの利用者は訪問診療を受けているが、家族が同行する通院の人もいる。訪問診療の結果は、事業所より家族に報告している。なお、医療機関との情報は「キビタンネット」を使い、共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模の看護師が最低1日1回は巡回し健康観察や処置を行っている。緊急の際は看護と相談し訪問看護や主治医へと繋げて早期に受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員とこまめに連絡のやり取りを行い退院・受け入れまでスムーズに完結できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に書面と説明にて終末期になった際にどのようなケアを希望するのか本人の意思が聞ける場合は直接うかがっている。今年度は実施できなかったが、また人生会議を再開して思いを聞ける機会を作ろうと思う。	入居時に事業所の「重度化した場合、および看取りに関する指針」を説明し、利用者・家族の同意を得て、終末期の意向を文書で確認している。また、重度化した際には、主治医より家族に説明があり、家族の意向に沿って看取り支援を行っている。なお、利用者の人生の振り返りを目的とした「人生会議」を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にAEDがある為、いざというときに職員が動けるよう、消防署で模擬のAEDを借りれる際は訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の緊急連絡網に地域の方や地域に住んでいる職員を選んでいる。小規模と共同し定期的に合同の消防訓練を行っている。また、もしもの場合の避難場所を契約の際に伝え家族も安心できるようにしている。	防災計画・マニュアルが策定されており、防災訓練は同法人併設の事業所と合同で実施している。消防署立ち会いの防災訓練は、昨年2回実施し、地震想定と夜間想定避難訓練も実施している。緊急連絡網に地域の方にも参加してもらい、協力体制が構築されている。非常用備蓄品は、食品として「ほかほか非常食セット」が準備されている。	消防計画に沿って定めた年間防災訓練計画があるため、今後はコロナ禍の問題を考慮しながらも、計画に沿って訓練を行い、夜勤者全員が夜間想定訓練を行えるよう、頻度を増やし実施することが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず礼儀をもって接し言葉遣いに気を付けている。その人個人の性格や好き嫌いを把握し対応している	利用者一人ひとりが今まで培ってきた人生史・経験・性格を職員が理解し、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉掛けや対応に努めている。また、職員間で気づいた点を注意し合える関係が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な介護にならないよう本人にききながら介護を行っている。意思表示が難しい人には難しくない選択肢にしてえらびやすくしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらから提案はするが強制はしない。その日の体調やその人の慣れているペースを尊重しながら介護を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様と話をしその季節にあった衣類や模様を持ってきてもらい着替えてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節感や嗜好を考慮して職員が考え提供して食べやすくしている。	献立作成や食材の手配は外注業者に委託している。利用者の嗜好品については、行事食等としてとりいれており、また、季節感のある食材の使用は利用者に喜ばれている。利用者と職員とが同じメニューを同じテーブルで楽しい会話を交わしながら一緒に食している。食前体操を実施し咀嚼・下機能の維持に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量・水分量は把握しており、変化があった場合はすぐにわかる。その時にあった食事形態を話し合い栄養摂取に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後順番に洗面所に誘導し口腔ケアを行っている。難しい方には職員が介護している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の生活パターンを頭に入れ誘導の時間を考え職員で声かけながら失敗を減らすよう心掛けている。	排泄チェック表や排泄パターンをもとに、羞恥心や不安感等に配慮し、プライバシーを守りながらトイレへの声かけ・誘導・見守り支援を行っている。自立に向けトイレでの排泄が継続されるよう支援している。転倒を防止し安全に排泄が出来るよう、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘で吐き気などの症状がでてくる利用者もいるため、運動の機会を多くとっている、また、ご本人が飲める水分を適度に提供しバランスをとっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めてしまっている所があるが無理強いはず時間帯も考慮して行っている。	入浴は、週2回を目標にしているが、利用者の心身の状態や思いを考慮し、柔軟に対応している。入浴が楽しいものになるよう職員と会話をしながら入浴し、ゆず湯・菖蒲湯・リンゴ湯等を取り入れ季節感が感じられるよう支援している。なお、機械浴も準備されており、重度の利用者も安全に入浴が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを把握し休息ができるような介助している。昼夜逆転にならないよう気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助をする観点から職員は利用者の飲まれている薬の大まかな成分は把握している。状況の変化があるときは主治医に相談してから服薬してもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が好きなこと、趣味だったことなど事前に聞き取りしできることを提案して楽しんで過ごしてもらえる介護をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は行えておらず外出もできない。ベランダに出て見える限りではあるが四季折々の風景を見てもらっている。コロナが落ち着けばドライブなど再開したいと思っている	今年度は、コロナ禍により外出の機会が少なく、居室のベランダに出ての外気浴や事業所周辺の散歩で気分転換やストレス解消を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を渡してしまうと無くしたと騒いだり不穏になる利用者もいるので、その利用者の状態に合わせている。現在は使う機会がないため、お金が近くないと不安な方のみ少額を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい方には持参の携帯電話や施設の電話を通じ話せるようにしている。手紙のやり取りができる様職員が投函したりハガキをかってきたりする利用者の方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・玄関はこまめに清掃し清潔を保つ。また、温度や湿度も不快にならない様、調整しながら行っている	廊下・階段・リビング等の壁面には、利用者が作成した桃や桜、躍動感のある蜂の貼り絵や行事の写真等が展示されている。ソファには、昼食後利用者が休まれており、落ち着いて過ごされている。清掃や温湿度・換気を適切に管理し、清潔で過ごし易い環境が整えられている。気になる光、音等は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や座ってもらう位置、利用者同士が快適にすごせるよう配置を考えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	できる限り自宅で生活していたときと似ている雰囲気を作っている。	居室は、家族と相談の上、居心地の良い環境となるように、自宅で使用していたテレビ・人形・衣装ケース・位牌・遺影・テーブル式コタツ等が持ち込まれており、落ち着いた自分だけの生活空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居場所があるという認識をしてもらうためにテーブルや居室などに本人がわかる目印をつけている。また、浴室・トイレなどはフロアの目につくところに矢印を掲示しわかりやすくしている		